

北京市教育視察に参加して (5)

学校紹介の3校目は、市の南西部、豊台区(丰台区)にある北京第十二中学校です。豊台区は都心に隣接しているものの、"老北京"からすれば北京に含めるにはいささか発展から取り残された感があると言われている地域です。東京都葛飾区と友好都市提携を結んでおり、歴史的には盧溝橋のある場所*
うこうきょう
と言えイメージしやすいかも知れません。

北京第十二中学の創設は 1934 年の簡易師範学校に始まり、国内で初めての学校運営工場を設立したほか、国家プロジェクトの重点校として、身体学、芸術教育、心理学、総合実験科学教育、実践教育の5つの分野で牽引する存在です。特に、マルチメディア教室は充実しており、600 台のコンピュータが結ばれています。校風として、生徒に「真実」「優しさ」「美しさ」を追求し、発信者、創造者となることを奨励しています。

同校に到着後、最初に陸上競技場に案内され、高校1年生と3年生 800 名余りの生徒による創作体操発表による歓迎を受けました。続いて 500 名を越える観客席を持った講堂(報告庁)にて、カンフーとチェアリーディングの演武・演舞を拝見しました。



同校ホームページより <http://www.bj12hs.com.cn/>



その後は、4 階建の科芸楼に移動し、屋上にてトマトや青物野菜を栽培する農園を見学、3 階ではビロウ？の葉を使った中国無形文化財の草編みの授業に参加し中学生と一緒にブローチづくりに挑戦し、続いて書道の授業を見学しました。さらには、建物を移して教学一号棟 4 階にて人工衛星観測室を参観しました。

施設見学・授業参観の後に、蔣富炎校長先生をはじめ多くの主任の先生方も参加して懇談会が行われました。説明によれば、ここでも教師の質向上に力を入れており、約 400 名の教員の内、28 % が大学院修了者(MA,Ph.D.取得者)とのことでした。

同校は、数多くの生徒が北京大学や清華大学など進学しており、特に優秀な進学高校とされる 13 高校の一つになっているそうです。また、2011 年には同じ敷地内に別棟の国際部を新設(1 学年定員 60 名)し、日本やドイツ、スペイン、アメリカ合衆国などとの交流を深めているとの説明でした。とりわけ、日本への修学旅行において生徒間交流やホームステイを意欲的に行いとのことでした。



同校の各種リーフレット

*盧溝橋…豊台区を流れる永定河に架かる石造りのアーチ橋。1937 年、日中戦争勃発の契機となった場所。

(つづく)
校長 石飛 一吉